

2020
日・チェコ交流
100周年

ミュシャと日本、 日本とオルリク

Mucha and Japan
Japan and Orlik

In commemoration of the 100th Anniversary of
Japan-Czech Republic Relations

アルフォンス・ミュシャ「ジョブ」ポスター 1898年 宇都宮美術館

2020年1月4日(土) - 2月11日(火・祝)

※会期中、展示替を行います。前期:1月4日(土) - 1月19日(日) / 後期:1月21日(火) - 2月11日(火・祝)

会場 / 岡山県立美術館 2階展示室 開館時間 / 9:00 - 17:00 ※1月4日(土)は10:00 - 17:00、1月31日(金)は19:00まで開館。入館は閉館の30分前まで。

休館日 / 月曜日(祝日の場合は翌火曜日) 観覧料 / 一般1200円、65歳以上1000円、高・大生800円、中学生以下無料

※20名以上の団体は2割引 ※年齢を確認できる証明書をご持参ください。

主催: 岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会 協賛: ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
後援: 駐日チェコ共和国大使館、チェコセンター東京、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、岡山県郷土文化財団、公益社団法人岡山県観光連盟、公益社団法人岡山県文化連盟、
NHK岡山放送局、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送、oniビジョン、FM岡山
協力: ルフトハンザグループ AG、一般財団法人高久国際奨学財団 コーディネート: イデップ 特別協力: チェコ国立ブラハ工芸美術館、ダッハウ絵画館



400点を超えるグラフィック作品が紡ぐ、めぐるジャポニスム。

2020年、日本とチェコの交流100周年を迎えるにあたり、チェコ出身のアルフォンス・ミュシャ (Alfons Mucha, 1860-1939) とエミール・オルリク (Emil Orlik, 1870-1932) の作品を通して、芸術分野における東西交流の軌跡を辿ります。

ミュシャは、ジャポニスムに湧く世紀末のバリで、甘美な女性像のポスターを制作し人々を魅了しました。その評判はすぐさま日本の作家たちに伝わり、絶大な影響をもたらしました。そして、版画家のオルリクは、ジャポニスムの潮流にふれて日本への憧れを募らせ、1900年から翌年にかけて来日しました。浮世絵版画や日本画の技法を習うにとどまらず、日本の美術界と交流を持ったことが注目されます。

本展では、背景としてのチェコのジャポニスムも加えて紹介するほか、明治・大正期のグラフィック作品などをあわせて展示します。互いに魅せられ、響きあった作家たちの共演をお楽しみください。



①アルフォンス・ミュシャ《「ジスモンダ」ポスター》1895年 三浦コレクション、川崎市市民ミュージアム ②エミール・オルリク《富士山への巡礼》1901年 バトリック・シモン・コレクション ブラハ ③葛飾北斎《富嶽三十六景 凱風快晴》1831-33年頃 島根県立美術館、新庄コレクション ④中澤弘光《岷(女学生)〈美人と感覚〉》1905年 三重県立美術館 ⑤アルノシュト・ホフバウエル《「マーネス美術家協会第2回展覧会」ポスター》1898年 チェコ国立ブラハ工芸美術館 ※④⑤は前期、②③は後期のみ展示。
(表面)アルフォンス・ミュシャ《「ジョブ」ポスター》1898年 宇都宮美術館

開催イベント

記念講演会
「アール・ヌーヴォーの花園
アルフォンス・ミュシャ(仮題)」

日時: 1月13日(月・祝) 14:00-15:30
会場: 2階ホール 定員210名(当日先着順)
講師: 西川奈津美氏
(堺 アルフォンス・ミュシャ館 学芸員)

美術館講座
「ミュシャと日本、日本とオルリク
—響きあう東西交流—」

日時: 1月25日(土) 14:00-15:30
会場: 地下1階講義室 定員70名(当日先着順)
講師: 石田すみれ(当館学芸員)

担当学芸員によるフロアレクチャー

日時: 1月4日(土)、2月2日(日) 14:00-15:00
1月31日(金) 18:00-19:00(美術の夕べ)
会場: 2階展示室 ※要観覧券
講師: 石田すみれ(当館学芸員)

その他のイベント

ワークショップなど開催予定。
詳細は当館ホームページをご覧ください。